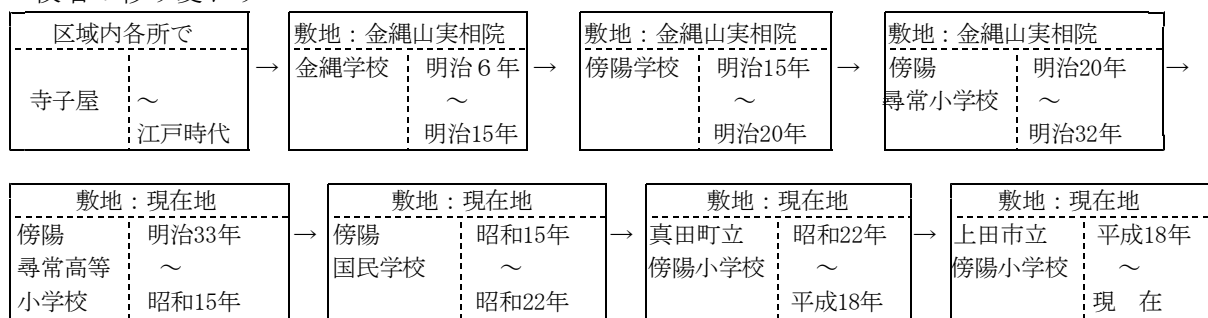


# 傍陽小学校区と立地、及び沿革略史

- 1 校 区 大倉・三島平・穴沢・上横道・中横道・下横道・  
田中・萩・曲尾・大庭・傍陽中組・岡保・入軽井沢 計 13 地区
- 2 地 形

当地区は洗馬川と傍陽川の合流地域にあり、両河川による複合扇状地である。洗馬川の営力の方が大きいので傍陽川を西方に押している。曲尾はその扇端面に当たり、その南側の低い平面は神川扇状地との裾合い地である。洗馬川は横道より上流部ではV字形であるが、大良付近ではなだらかな傾斜面地帯が広い。半田入谷沢の北斜面は急な崖の連続で、川幅がそこに三島平・大倉を乗せている。大庭から入軽井沢までは狭く長い谷平野であるが、他の谷平野に比べて段丘面上の平地が狭く、河床面が広いことが特色である。大庭は東西10m内外の段丘崖下の氾濫原の上にあり、中組・石堂は扇状地毛面上にあって、2mほどの段丘崖で氾濫原に接している。岡保は1m内外の段丘上に立地し、氾濫原から逃れている。入軽井沢から上流部の矢坪沢の合流するにあたりは兩岸絶壁の大溪谷をなすが、その奥地に新田の小盆地がある。ここで鳴尾沢川と傍陽川が合流する。

## 2 校名の移り変わり



## 3 沿革の概要

- 明治 6年 12月1日に金縄山実相院の一部を借用して金縄学校を創立する。
- 15年 傍陽小学校と改称し、中等科を設置する。
- 19年 傍陽尋常小学校となり、授業料を徴集する。村内を巡回して、生徒体操を行う。
- 34年 高等科を設け傍陽尋常高等小学校と改称し、新校舎竣工開校式を行う。
- 大正 2年 器械体操、遊動円木をとりつける。
- 14年 校庭を拡張する。
- 昭和 15年 傍陽国民学校と改称する。味噌汁給食が開始される。
- 20年 東京都池袋第六国民学校の疎開児童約60名を、横道公会堂で受け入れる。
- 22年 傍陽小学校と改称し、傍陽中学校が開校される。傍陽学校PTAが発足する。
- 26年 開校50周年を迎え記念式典を行う。給食室を整備し、学校給食を開始する。
- 31年 横道・岡保両分校を廃止する。長・傍陽・本原の三中学校を統合し真田中学校となる。
- 42年 鉄筋本校舎、給食室、宿直室、音楽室竣工。改築記念式典を行う。
- 47年 開校100周年を迎え記念式典を行う。記念事業として「目にふじを」の碑建立。
- 50年 峰山・天狗岩全校登山。 53年 修学旅行、諏訪・松本から東京方面へ。
- 58年 東太郎山に全校登山。新体育館竣工。 60年 西トイレ改修。
- 平成 3年 鉄筋本校舎を全面改修する。
- 13年 パソコン教室、水洗トイレが完成する。
- 14年 木造校舎を取り壊し、特別教室の改築に入る。開校130周年記念式典を開催する。
- 15年 特別教室棟完成。校長住宅解体、駐車場に。前庭遊具を移動し、東側を駐車場とする。
- 18年 3月、市町村合併により、真田町立から上田市立となる。
- 25年 5月、耐震化のための校舎改築工事（南校舎）竣工。合わせて開校140周年記念式典を開催する。  
(記念事業：校庭に桜の記念植樹 航空写真撮影)
- 29年 信州型コミュニティースクール「傍陽の子どもを育む会」設立。ふれあい広場スタート
- 令和 元年 新学習指導要領に合わせ重点目標（グランドデザイン）改定（外国語・道徳の教科化）。
- 2年 新型コロナウイルス感染症により全国の小中学校が3月から約3か月休校。運動会等の中止・改変。

## 1 学校・子ども達の状況

### (1) 学校を取り巻く環境

#### ①洗馬川・傍陽川流域の豊かな自然

校区は、上田市北部に位置する真田町傍陽地域の全域で、地域と校区が完全に一致している。上田市街地から車で約20分と比較的近いが、傍陽川・洗馬川、北方に広がる峰山地域の「ふるさと公園」等、豊かな自然に囲まれている。

#### ②古い歴史と伝統行事を残す地域社会

平安時代より牧としての記録を残し、同時代創建の古刹である金縄山実相院がある。同寺には、懸崖造りの堂があり、室町期の宝篋印塔や古仏が伝えられている。古い創建の耕雲寺も校区にある。校地は中世領主の居館跡であり、洗馬城址・根古屋城址が隣接している。曲尾氏・真田氏等の往時の興亡を伝える遺構である。また、穴沢には樹齢500年をこえる穴沢の一本松と、根元には所縁の弾正塚宝篋印塔がある。傍陽中組の諏訪社の御柱祭、横道の奉納相撲、萩の道祖神祭・神楽獅子舞など、多くの地域伝統行事も継承されている。

#### ③地域共同体が残り高齢化率（30%以上）が高い地域

古くからの地域・近所での支えあい、共同体としての結びつきが強い。区域の人口は2207、924世帯（R2.3.1現在）である。子どもを大事にする意識が強く、登下校時には声がけをしてくださる方が多い。児童の転出入は小規模である。転入の理由は、保護者が実家に入ったり、新居を構えたりするケースが比較的多い。今年度の新入生は徐々に20名を数えるが、ここ数年は10人台で推移しており、人口減少による児童数の減少を危惧している。

#### ④「地域の学校」という強い意識

明治6（1873）年12月、「金縄学校」として実相院において始まった本校の黎明期、本堂裏に植えられた二本の銀杏の見事な大木は、今も本校を見下ろす。かつて「愛校貯金」で学校改築の端緒を開くなど、地域の学校への愛情と期待は大きく、教育活動に大変協力的である。新校舎は平成22年度より計画・準備を行い、23年度に南校舎及び北校舎への廊下、特別支援教室、保健室が完成した。さらに24年度に外構工事が行われ、中庭・遊具場・駐車場が設置され、25年度5月に竣工式と合わせて140周年記念式典（航空写真撮影・校庭に桜の苗木の植樹）を開催した。令和5年度（2023年度）には開校150年を迎える。

#### ⑤福祉施設とのかかわり

昭和50年代初めに創設された「かりがね学園」の福祉施設があり、「総ての人が豊かな人生を送れる地域づくりを」という理念の下で発展・充実してきている。「OIDEYOハウス」等の障がい者自立支援のための福祉関連施設が多く存在し、地域には、施設に関わって働く人も多く、障がいのある方に対する理解と優しさを持ち合わせている地域でもある。

#### ⑥幼保小中連携

入学児童は、そえひ保育園出身者が多く、いずみ幼稚園出身者が若干名、令和3年度は、卒業生14名全員が真田中学校に進学した。平成30年度入学の児童1名が上田養護学校に在籍（令和4年度6年生）し、本校児童との交流を続けている。

#### ⑦新型コロナウイルス感染症予防

昨年度、休校等大きな影響があった感染症への対応（新しい生活様式）をはかっている

## (2) 地域・保護者の願い

- ① 基礎学力および学習意欲の向上、健やかな心身の成長と基礎体力の向上。
- ② 自他に優しい心で誰にでも挨拶ができ、ふるさと傍陽を誇りに思う子ども。
- ③ 卒業後、どのような場においても、主体的に行動し、自分の思いを表現できる子ども。

## (3) 子どもの良さと課題

### 「健やかな心と体」の面から

祖父母と同居等の家庭環境により、望ましい生活習慣を身につけ、心身共に健康的な生活を送っている児童が多い。長期欠席による不登校傾向児童はないが、登校渋りは若干見られる。

- ① 全校徒歩通学であるが、学区が広いいため、朝は保護者に送ってもらう児童が見られる。
- ② 夜更かしやゲームのやり過ぎ等、望ましい家庭生活を過ごせていない児童が見られる。

### 「確かな学力」の面から

与えられた課題に誠実に取り組むことができる。各学年少人数のため、一人一人に目が行き届く指導が行えている。必要に応じて支援員による個別支援も行っている。

- ① 自ら課題を見つけて追究する学習意欲、思考力、表現力に課題がある子どもがいる。
- ② 学年が上がるにつれ、学習理解に時間がかかり、自信がなくなる児童が見られる。

### 「豊かな心」の面から

学級内でも仲良く過ごし、異学年同士も互いが名前を知り合い、一緒に遊んだり清掃をしたりしてかわりをもち、友達を大切にする児童が多い。

- ① 保育園からの繋がりや親同士の関係から、互いの見方が固定しがちであり、トラブルがあった場合も、よりよく解決し人間関係を改善しようとする意欲・態度に課題がある。
- ② 学習・生活面で、コミュニケーション能力を含め表現力に課題がある子どもがいる。

## 2 教育目標・重点目標

(1) 学校教育目標 「にこにこ笑顔 どきどき挑戦 どんどん響き合う 傍陽の子」

### (2) めざす子どもの姿

#### にこにこ笑顔 【健やかな心と体】>

- ① 自他の命と人権を大切に、よりよく伸びようとする子
- ② 体を動かし学び、遊んで元気な体をつくる子

#### どきどき挑戦 【原体験の感動と語り】>

- ① 原体験にひたり楽しめる子
- ② 思い・考えを持ち話し合い深める子
- ③ 自ら考え判断して、表現する子

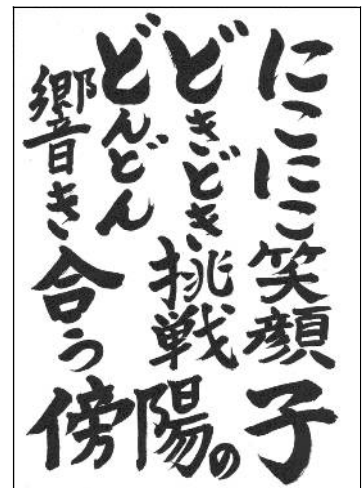
#### どんどん響き合う 【確かな学びと支えあい】>

- ① 友達を思いやり、協力し合える子
- ② 個の学びの確立と学力の向上、共に伸びる喜びを感じる子

### (3) 令和3年度の重点目標

「自分の『ことば』で伝え合おう」

表現力の育成とコミュニケーション能力の伸長を願う中で、一人ひとりの子どもの個性を大切に自分らしさを発揮できる環境で自己肯定感を持てる学校生活にする。豊かな表現は、言語表現だけではない。目いっぱい体を動かすことも、笑顔で周りの人を元気にすることも、のびやかな歌



声も、個性あふれる作品も、誠実な仕事も、すべてその子どもなりの個性にあった表現の方法であり、コミュニケーションのための「ことば」である。自分にあつたコミュニケーションの手段を肯定的に捉え、自信をもって集団の中に自分の居場所を作っていける子ども達を育てたい。

### 3 重点目標の具現に向けて

#### (1) 3つの柱

##### <太陽のようなあいさつ・ことば>

- ①職員が率先して声をかける。児童会や学級活動の挨拶運動を支援する。
- ②「はい」の返事、「ありがとう」等の言葉を伝え合い、自発的なコミュニケーションに結び付く指導を行う。
- ③学校支援ボランティア、地域との交流を実践の場として大切にする。

##### <傍陽に遊び学んで思いをかたる>

- ①傍陽を舞台に、遊び、体験し、かかわって、自分だけの感動や思いを得るように支援する。
- ②感動や思いをもとに、学年・学校全体で一つのものを作り上げ、自分のことばで語れるように支援する。
- ③創立150周年（令和5年度）に向けて、地域をふまえた学校文化を創造する。

##### <支え合う仲間、個と協働の学び>

- ①認め、支え、励まし合う関係づくりを礎として、人権同和教育の視点に立った指導を行う。
- ②「わかった」喜びが自信となり意欲的に学習に向かえるよう、UD化・ICTを活かした授業改善を進める。
- ③①②の上にたち、個の学びの保障と、協働的学びの確立を目指す。

#### (2) 学力向上に向けた授業改善への取り組み

- ・授業がよくなる3観点「ねらい、めりはり、みとどけ」が明確で、深い学びにつながる活動がすえられた授業設計を行う。
- ・授業のユニバーサルデザイン化（信州型UD）を根底において、日々の授業改善を進める。授業研究をとおして、成果と課題を明らかにする。
- ・NRT、全国学力・学習状況調査等、諸検査の結果を分析し、子どものつまずきを明らかにし、職員間で共有する。
- ・外国語、外国語活動、道徳について重点的に研究を進め、成果と課題を明らかにしながら実践する。

#### (3) 家庭学習の充実

- ・「家庭学習の手引き」を活用し、課題の出し方、内容、時間、見とどけについて検討し、子どもの学習意欲を高め、家庭と連携を図る。
- ・発達段階に応じた家庭学習にするとともに、授業と関連した内容の家庭学習にする。
- ・生活学習ノート「紡ぐ（つむぐ）」を活用し、家庭学習の習慣化を図る。

#### (4) 保護者・地域との連携

- ① 授業参観日や行事等に積極的に学校を開放し、地域と連携した学校づくりに努める。運動会、音楽会、ふれあい伝承広場、クラブ活動場等、保護者や地域の方々の参加、協力を図る。
- ②教科（生活科、総合的な学習）、クラブ活動等で、地域の素材をもとに教材化をはかり、傍陽ならではの学びを創造する。地域人材（外部講師・ボランティア）の協力を得て連携し、信頼関係を深める。
- ③ 学校だより（家庭配布・地域回覧）やホームページ等の充実を図り、保護者や地域の方々の学校教育への理解を促し、連携を深める。

④ 地域の運動会、消費生活展、そえひ文化祭等、地域の行事への児童の参加を促す。

⑤ 令和5年度の開校150周年記念事業に向けた準備を連携して推進する。

#### (5) 施設設備の活用

① 校舎新築・外構工事の後、平成25年度に竣工式及び140周年記念式を実施した。地域の方々の思いや願いを感じ、本校やふるさと傍陽に心を寄せる子どもを育成する。

② 令和3年度導入の一人1台のタブレットPCを活用したICT教育、そえひ水路、学級農園、岩石園等の活用を図る。

#### (6) 傍陽小学校の教職員として

① 全校児童を全職員で指導し育てるという気概をもって、日々の教育活動に努める。

「みんなで育てる、みんなを育てる」

② 自ら求めて研修を行い、同僚からも学び、わかる授業・魅力ある授業づくりに努める。

「和して高め合う、縁を大切に」

③ 指導力を高めるための公開授業と授業研究会を実施し、その成果を活かす授業を行う。

「子どもに還る授業実践の積み重ね」

④ 報告・連絡・相談・確認により情報を共有し的確に対応する。〈初期対応〉

「予測し、早期対処により、困難を解決する」

⑤ 全ての子どもに笑顔で接し、どの子からも相談される信頼関係を築く。

「愛情と敬意をもって接し、一人一人を慈しむ」

⑥ 保護者や地域の方々と連携を図り、協力をいただいて教育活動に取り組み、信頼を築く。

「社会人、教育公務員としての自覚と責任」

⑦ 長野県上田市の教職員として、綱紀肅正に日々努め、非違行為防止の研修を充実させる。

「セハラ・体罰等非違行為はしない 声を掛け合い非違行為防止と交通法規遵守に努める」

⑧ めざす教師像

・学ぶ意欲を喚起し、達成感、自己肯定感・自尊感情を高め、自信をつけさせる教師

→ これらのため上記をふまえ、指導力向上に努め、授業改善に取り組む教師

### 3 グランドデザイン

・別紙参照



学校教育目標 **にこにこ笑顔・どきどき挑戦・どんどん響き合う 傍陽の子**

児童の実態

- 健康的な生活をしている児童が多く、欠席が少ない。体を動かす活動や遊び体験には課題がある。
- 友と関わる学びに成果が出てきている。一方で、受け身の傾向もある。
- 学習にまじめに取り組み、学力を身に着けている。表現力や思考力には課題がある。

学校の願い

- ◇基礎学力定着、意欲・思考・表現力の向上
- ◇明るい挨拶、思いやり・温かい声かけ
- ◇心身のバランス良い成長と体力の向上
- ◇ふるさと傍陽への愛着・誇り

保護者・地域の願い

- 基礎力、学習意欲の向上。健やかな心身の成長と体力の向上。
- 誰にでも挨拶ができ、優しい心をもてる。
- 主体的に行動し、自分の思いを表現できる。
- 傍陽を愛し誇りに思う気持ち。

<b>にこにこ笑顔</b> 【健やかな心と体】	<b>どきどき挑戦</b> 【原体験の感動と語り】	<b>どんどん響き合う</b> 【確かな学びと支えあい】
① 自他の命と人権を大切に、よりよく伸びようとする子 ② 体を動かし学び、遊んで元気な体をつくる子	① 原体験にひたり楽しめる子 ② 思い・考えを持ち話し合い深める子 ③ 自ら考え判断して、表現する子	① 友達を思いやり、協力し合える子 ② 個の学びの確立と学力の向上、共に伸びる喜びを感じる子

【本年度の重点目標】 **自分の『ことば』で伝え合おう**

〔重点目標の具現に向けて〕

<b>1 太陽のようなあいさつ・ことば</b>	<b>2 傍陽に遊び学んで思いをかたる</b>	<b>3 支えあう仲間 個と協働の学び</b>
① 職員が率先して声をかける。児童会や学級活動の挨拶運動を支援する。 ② 「はい」の返事、「ありがとう」等の言葉を伝え合い、自発的なコミュニケーションに結び付く指導を行う。 ③ 学校支援ボランティア、地域との交流を実践の場として大切にする。	① 傍陽を舞台に、遊び、体験し、かかわって、自分だけの感動や思いを得るように支援する。 ② 感動や思いをもとに、学年・学校全体で一つのものを作り上げ、自分のことばで語れるように支援する。 ③ 創立150周年(令和5年度)に向けて、地域をふまえた学校文化を創造する。	① 認め、支え、励まし合う関係づくりを礎として、人権同和教育の視点に立った指導をおこなう。 ② 「わかった」喜びが自信となり意欲的に学習に向かえるよう、UD化・ICTを活かした授業改善を進める。 ③ ①②の上にたち、個の学びの保障と、協働的学びの確立を目指す。

地域と歩む学校～信州型CS 傍陽の子どもを育む会

- 地域の方々の学校支援ボランティアへの参加の奨励。
- クラブ支援、行事等への参加、参観と協力の呼びかけ。
- 積極的な情報発信(ホームページ等)。

施設、自然・歴史、文化的環境、人的環境

- 傍陽の自然・歴史、文化、人に触れる学習。
- 異学年交流：人間関係の広がり。・感染症対策
- タブレットPC・実物投影機等、ICTの有効活用。

授業改善への取り組み

- 新たな学習指導要領のもと、信州型UD(授業がよくなる3観点等)で、深い学びにつながる学習活動のある授業設計を行う。
- 授業のUD、学習の個別化、「新たな生活様式」の元での学びを念頭に、授業改善・学習環境の整備を進める。ICT教育(タブレットPC)活用。
- NRT、全国学力・学習状況調査等、諸検査の結果を分析し、子どものつまずきを明らかにし職員間で共有して、具体的な手立てを講ずる。
- インクルーシブ教育、人権同和教育の研究を深める。

家庭学習の充実

- 「家庭学習の手引き」により、宿題、内容、時間、見とどけについて検討し、家庭と連携を図る。
- 授業との関連性・発展性があり、発達段階に応じた意欲が高まる内容の家庭学習にする。
- 生活学習ノート「紡ぐ(つむぐ)」を活用し、家庭学習の習慣化を図る。